

Monthly Report

子どもの歓声、2年ぶり学内にこだま／2020東北こども博を開催



各会場で大いに楽しみました

10月10日（土）、2年ぶりに東北こども博を開催しました。昨年は台風19号の影響で中止。今年は新型コロナウイルスの影響から縮小して開催しました。

例年約2万人が参加するイベントですが今年は人数を制限し、事前申込制としました。

各施設ではスラックラインやチャンバラ遊び、パルクール体験、ストライダーなど様々な体験コーナーを設け、仙南地域の小学生ら中心に仙台市や富谷市などからも足を運んでいただき、来場者約380名が学生と一緒に遊んでからだを動かしました。

参加した子どもたちから「すごい楽しかった!」「バドミントンとストライダーが楽しかった」「もっと遊びたい」などの声が聞かれました。

2020東北こども博の主催者は「今般のコロナ禍の状況で、申込者がどれだけののか心配でしたが、あっという間に定員オーバーとなりました。また、当日は台風の影響から雨で開場20分前になっても来場者が現れなかったものの、大学正門前に到着したシャトルバスから来場者が次々と降り立ち、不安もあっという間に払しょくされました。

多くの皆さまにご参加いただき、地域あつてのイベントであることを改めて再認識しました。誠にありがとうございました」と笑顔で話してくれました。



介護ロボットと触れ合おう



ベラルーシ共和国紹介コーナー

＜目次＞

・子どもの歓声、2年ぶり学内にこだま／2020東北こども博を開催	1
・漕艇部、男子エイト悲願の初優勝／仙台大学、UNIVAS CUP 7位に躍進 ・新聞活用の冊子を作成／河北新報社と共に編集 ・地域の安全を守る／本学学生が一日警察署長	2
・2020年の「Never let a good crisis go to waste」	3
・ヨガって気持ちいい！今年も体験授業実施／健康福祉学科 ・ノルディックウォーキングを初体験／健康福祉学科	4
・ロボットアシストウォーカー贈呈式が行われました ・魅力発信／介護ロボット体験セミナーを開催しました	5
・連勝発進／男子バレーボール部活動報告／秋リーグ1週目 ・開幕4連勝／男子バレーボール部活動報告／秋リーグ2週目 ・6連勝／男子バレーボール活動報告（秋リーグ3週目）	6
・芝草通信 NO. 18	7
・令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 30	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

漕艇部、男子エイト悲願の初優勝／仙台大学、UNIVAS CUP 7位に躍進



10月25日（日）に開催された第47回ボート全日本大学選手権大会で、準優勝5回と、あと一步で涙を飲んできたエイトで、ついに全日本学生の頂点に立ちました。

優勝チーム・キャプテンの喜びの声、競技写真をご覧いただき、コロナ禍のなか、各位の声援の成果である今回の素晴らしい快挙について、全学挙げて共に祝いましょう。

また男子シングルスカルも優勝(3度目)し、他の種目も2位1種目、3位3種目、5位1種目と、全てメダル獲得もしくは入賞を果たし、2度目の総合優勝を果たしました。女子も入賞3種目と活躍しました。

なお、各競技の様子は、連日、UNIVASでライブ中継され、今回の結果により、各競技の総合ポイントで争うUNIVAS CUP ランキング で仙台大学は7位に躍進しました。

新聞活用の冊子を作成／河北新報社と共に編集

本学のスポーツ情報マスメディア学科はこのほど、河北新報社発行の教育活用応援ブックの作成に編集協力し『新聞っておもしろい 改訂2版』（A4判、32ページ）を作りました。

この冊子は、新聞を読むことで「学ぶ力」「考える力」を養っていこうという目的で作られています。「第1章 読み方講座」「第2章 ワークブック」「第3章 新聞づくり」のうち、本学は放送局OBの教員が活字表現だけでなく動画撮影の仕方を分かりやすく絵入りで解説。元新聞記者の教員は「新聞を読んで成長するあなたに」と題しメディア・リテラシーの必要性を説く文章を寄せています。



本学科は今後、この冊子をメディア関係の演習や実習で教材として活用していきます。
＜スポーツ情報マスメディア学科＞

地域の安全を守る／本学学生が一日警察署長

10月16日（金）本学学生の武者香織さん（体育4年）と千葉隆人さん（スポーツ情報マスメディア4年）が、宮城県警大河原警察署から一日警察署長として委嘱され、同日、フレスコキクチ柴田店で警察職員と一緒に特殊詐欺等被害防止を呼び掛けるチラシ等を配布し、広報啓発活動に力を注ぎました。

2人は前期に受講した「社会教育演習B」の一環で高齢者の特殊詐欺被害について学んでおり、大河原署と本学が連携し、今回の一日警察署長が実現しました。

武者さんは「この活動が少しでも地域住民の皆さんに注意喚起として広まり、詐欺被害防止に繋がってほしいと思います」と話してくれました。



2020年の「Never let a good crisis go to waste」



日本国際教育学会受賞した時の様子（写真右）



息子（5歳）と娘（10歳）と一緒に（写真中央）

仙台大学 教授 白幡 真紀

去年の今頃、世界がこのように変わるとは誰も想像だにしなかったでしょう。この2020年は誰にとっても忘れられない年になることは疑いがありますが、4月に着任した我々や新入生、新たな門出を迎えた人々にとって、いや、影響を受けたすべての人々にとって、多大なインパクトを残すことになりました。

ちょうど一年前、私は某大学の講義にゲストとして呼ばれ「キャリアを模索するキャリア教育研究者」という内容の講義を行っていました。学位を取得しながらもなかなかポストが決まらず、またひとり親で二人の子供を育てている私が、キャリア教育や労働への移行支援を研究しつつも自分のキャリアについて毎日逡巡している、という若干自虐的な内容でした。しかし、これは先進国にとって重要な社会問題を孕んでおり、職場での長時間労働を前提とした労働市場における女性（研究者）の価値、ひとり親家庭の困窮、地方・都市部の分断、常勤・非常勤の格差など、その背景についても自分自身を例にして話をさせていただきました。

その後、大変素晴らしいご縁によって仙台大学に着任することができましたが、このキャリア・ギャップの何年間については、その不安や苦労以上のリターンを私にもたらすことになりました。格差や分断に対する問題意識、また当事者としての視点は新たな研究テーマへの推進力ともなりました。ありがたいことに、博士研究員の間にも、数々の助成金の獲得や学会理事への就任、また学会賞や奨励賞など栄誉ある賞を1年で3つ受賞するなど、研究を続けていけるだけの十分な後押しもありました。毎日家族と「ありがたいねえ」と言っていた覚えがあります。危機と機会はまさに表裏一体のものであると、自分自身の経験として学ぶ機会になりました。そしてこのことを多くの人に伝えたい、キャリア形成に不安を持つ人々に希望を持ってもらいたい、という気持ちを一層強くしました。

そして、仙台大学での半年間はコロナ禍の試行錯誤からスタートしました。自分自身の仕事を立ち上げながらも、今の教育はどうなっているのか、世界で何が起きているのか、注視する日々。初めてのオンライン講義に試行錯誤しつつも、こうした新しい試みからの学びは大きく、課題を強く意識すると同時に、高等教育における今後の大きな可能性も感じることができました。

実は、前述の「キャリアを模索するキャリア教育研究者」の講義回は、学生からの評判がよく、今年もまた同じ内容・同じ大学で講義を行うこととなりました。大変ありがたいことですが、今年はこちらに「コロナ禍による危機と分断」を付け加えなければなりません。タイトルに挙げた言葉「Never let a good crisis go to waste」は第二次世界大戦後に発したとされるウィンストン・チャーチルの言葉です。「せっかくの危機を無駄にするな」と言ったところでしょうか。この混乱の中、世界は「分断」というキーワードで語られる場面が多くなってきました。世界のあり方をも変えようとするこの大きな危機に、よりよい社会へと変革するチャンスとなるのかどうかは私たちのひとりひとりの行動にかかっています。「危機」は「機会」となるのか。「分断」は「多様性」として包摂されるのか。この大きなテーマを仙台大学の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

仙台大学に来てから話をした学生さんは多くはありませんが、皆さんとても素直で明るい印象です。これから知識や教養を身に着けることで大きく飛躍してくれることでしょう。コロナで失ったものもあるかもしれませんが、地域のシンボルであるキャンパスは見違えるほどきれいに清潔になりました。この美しいキャンパスを2020年のレガシーとして残していきたいものです。

ヨガって気持ちいい！今年も体験授業実施／健康福祉学科

10月16日（金）健康福祉学科では、2年生の健康支援・介護予防演習として今年で5回目となる「ヨガ体験授業」を行いました。健康福祉学科卒業生（4期生）の中村孝子 講師（インド中央政府公認ヨガインストラクター）の指導のもと、ゆっくりと体を動かし、キャンパスに静かなゆったりとした時間が流れていきました。何かとストレスも多いこの頃で、体験授業もマスク着用でしたが、とても気持ちよくリフレッシュすることができました。

学生からは、「ヨガをやって血流がよくなりました。これからも続けます」、「日頃、動かせないところを動かせたので、とても軽く感じます」「はじめてのヨガで、部活でも使えるような動きや、リラックスの仕方を学べて良かったです」、「心を落ち着かせ無理なく出来るため、健康支援・介護予防につながることを改めて学ぶことができました」などの声が寄せられました。
＜報告：健康福祉学科＞



ノルディックウォーキングを初体験／健康福祉学科

10月22日（木）にノルディックウォーキング（以下：NW）体験を健康福祉学科「健康支援・介護予防演習」の一環として行いました。

講師の星勝久さんは健康福祉学科卒業生（1期生、現大学院1年コース）で、国際ノルディックウォーキング連盟のナショナルトレーナーの上級資格を保持しています。

学生は初めての体験で、NWボールの使い方や基本動作を学内で学んだ後、大学周辺の上り坂・下り坂歩行を楽しみながら歩きました。

終了後は「身体が熱くなった」「思ったよりボールの使い方が難しかったが、とても楽しく活動することができた」「登りと下りの坂が大変だったが、みんなと一緒に楽しく歩くことができた」などの感想が聞かれました。

講師の星さんは「NWは全身の約9割の筋肉を動員でき、通常歩行よりもエネルギー消費が多く、より効果が得やすいウォーキング法とされています。また、必ず地面にボールが着いているため、歩行が不安定な高齢者などへの運動法としても全国各地で取り組まれています。まだまだ奥が深いスポーツで身体的効果以外にも、コミュニティの活性化や、スポーツツーリズムの視点からも注目されてきているスポーツなので、これを機会に興味を持っていたら幸いです」と期待を寄せました。

演習では今後も、健康、福祉（しあわせ）に役立つ、さまざまな健康運動、健康度測定法などを学んでいきます。

＜報告：健康福祉学科＞



星 勝久さん（健康福祉学科1期生、
現・大学院1年コース）

ロボットアシストウォーカー贈呈式が行われました

10月16日（金）本学LC棟にて、介護事業を運営する株式会社リツワ様（本社：栗原市）より、寄付物品の贈呈式が開催されました。

株式会社リツワ様は、株式会社七十七銀行の保証する「77社会貢献私募債（寄付型）」を発行し寄付先を探していたところ、介護福祉教育を行っている弊校を贈呈先として選んでいただいたものです。

贈呈式では、株式会社リツワ 取締役 蜂谷健太郎様より大学の介護福祉研究のためロボットアシストウォーカーの目録が朴澤理事長に贈呈されました。

また当日は本学附属高校の明成高校へ介護ロボットセミナーを実施しており、介護福祉を学ぶ高校生への理解と知識の普及をもたらし一環となりました。

今回の贈呈により、株式会社リツワ様は「私募債発行により効果的な資金調達が可能となり、企業活動を通じて地域貢献と介護事業の普及を支援した」、本校は「介護福祉を学習している貢献と高校生への理解と知識の普及を目的とした教育を推進する一助となり、介護用ロボットの期待と重要性を広報した」、株式会社七十七銀行様は「地域に根差した銀行として、積極的な資金供給に加え、資金調達にかかる顧客の多様化ニーズに対応して地域貢献や地域創生を支援した」こととなり、3者Win-Winの達成が実現されたものでした。

<スポーツ健康科学研究実践機構>



魅力発信／介護ロボット体験セミナーを開催しました



10月16日（金）本学LC棟で、仙台大学附属明成高等学校福祉未来創志科1年生24名を対象に介護ロボット体験セミナーを開催し、介護現場等で導入されている最新のロボットに触れました。

介護支援型ロボットではマッスルスーツを着けて重い荷物を持ち上げる体験や福祉用具のラクラックスを使用したベッド上での移動体験、自立支援型ロボットのロボットアシストウォーカーを使用した歩行体験、コミュニケーション型ロボットではPALROを用いたレクリエーションやOri Himeを通したコミュニケーションの体験をしました。

また、認知症を持つ人の困りごとについてVR体験や実践的なレクリエーションを実施し、本学学生と高校生が触れ合いながら、楽しく学びました。

参加した明成高生からは「いろんな種類のロボットがあることを知りました」「大学生のお兄さんの説明がとても分かりやすかった」と笑顔で話してくれました。

今後も健康福祉学科の介護福祉士領域では介護の魅力や介護に関する最新の情報を広く発信する大学として、取り組んでまいります。

<報告：健康福祉学科>

連勝発進／男子バレーボール部活動報告／秋リーグ1週目

第56回東北バレーボール大学男女リーグ戦は10月11日（日）に開幕しました。
新型コロナウイルス感染拡大の影響で今シーズン、主要大会が相次ぎ中止となるなかでの公式戦です。

本学はダブルヘッダーで青森大学、富士大学と対戦と連勝しました。

スコアは次の通り

仙台大学 3 (25-16、25-10、25-21) 0 青森大学

仙台大学 3 (20-25、25-21、25-12、25-20) 1 富士大学



次節は10月17日（土）、18日（日）に仙台大学第2体育館で、福島大学、東北福祉大学と対戦します。

<男子バレーボール部>

開幕4連勝／男子バレーボール部活動報告／秋リーグ2週目

第56回東北バレーボール大学男女リーグ戦2週目は10月17日（土）、18日（日）に本学第2体育館で行われました。

本学は10月17日（土）に東北福祉大学、18日（日）は福島大学と対戦し、いずれも勝利を収めて開幕4連勝としました。

スコアは次の通り

仙台大学 3 (25-12、25-18、25-21) 0 東北福祉大学

仙台大学 3 (25-16、25-12、25-16) 0 福島大学



次節は10月24日（土）、25日（日）に福島大学第1体育館で山形大学、東北公益文科大学と対戦します。

<男子バレーボール部>

6連勝／男子バレーボール部活動報告／秋リーグ3週目

第56回東北バレーボール大学男女リーグ戦3週目は10月24日（土）、25日（日）に行われました。

本学は10月24日（土）に山形大学、25日（日）は東北公益文科大学と対戦、いずれもストレートで勝利し、開幕6連勝としました。

スコアは以下の通り

仙台大学 3 (27-25、25-20、26-24) 0 山形大学

仙台大学 3 (25-19、25-16、25-16) 0 東北公益文科大学



次節が最終戦となり、11月1日（日）に仙台大学第2体育館で東北学院大学と対戦します。

今回のリーグ戦は無観客試合となりますがYouTubeにて試合のライブ配信を行っています。初の試みでもあるため配信中に不都合が生じることもあるかと思いますが、選手の戦っている姿に画面を通して声援を送っていただき誠にありがとうございました。

今後も本学男子バレーボール部の応援を、よろしくお願いいたします。

<男子バレーボール部>

11月の芝生管理と噴水周りの糞害について

1. 噴水まわりの天然芝の維持管理（暖地型日本芝生）

＊この時期は生育が止まるため刈り込み、水やり、肥料は必要ありません。

①草取り：

スズメノカタビラやオオアレチノギクなどの冬雑草の発生が多くなり、芝の色が落ちるため目立つようになります。この時期は小さく抜きやすいのでこの間にこまめに抜いておきましょう。

②病虫害の防除：

秋に発生した病気の跡が残ることがあり、来春の萌芽を少し遅らせることがあります。殺菌剤などは必要ないでしょう。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー場・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋暖地型芝草）

10月に入ると暖地型芝草は徐々に休眠に入っており茶色部分が目立つようになってきました。そこで、冬から来春に向けて寒地型洋芝への＊ウィンターオーバーシードを行うために10月中旬に寒地型洋芝の種まきを行いました。

＊ウィンターオーバーシードとは

冬に枯れてしまう暖地型芝草の上から寒さに強い寒地型芝草を覆うことで1年中芝生を緑にすることです。

①刈り込み：2週間に1回程度行います。

②水やり：普通は必要ありませんが、発芽を促進するため、乾燥している場合は行います。

③肥料：化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1㎡当たり30g程度施します。

以降は、3月の芽出しまで施肥は行いません。

参考文献：NHK趣味の園芸

1.B. 噴水周りの糞害対策

9月末より、大学構内の噴水周りの芝生上に、獣の糞らしきものがほぼ毎日、同じ場所にあります。糞の中を確認したところ柿の種などの種実などが多く、恐らくハクビシンやタヌキのような「ため糞」の習性をもつ動物の仕業だと考えられます。そこで、対策として市販されている獣除けを使用することにしました。この獣除けの効果としては、日本に生育するタヌキなどの天敵であったオオカミの100%尿を利用しており、その匂いを嫌う動物を寄せ付けなくするものです。今回は「ため糞」のあった場所の周りに数か所に獣除けを配置し、その効果を期待しました。（写真参照）

（注）あえて糞に触ることはないと思いますが、感染症などの危険があるため見かけても素手では決して触らないようにしてください。



写真1 獣除け小分け容器



写真2 糞の跡と容器の位置

令和2年度仙台大学履修証明プログラム

「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」

10月24日（土）あすと長町ゼビオアリーナにおいて令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」の開講式が行われました。

この講座は大学における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムを提供します。教育課程は、保育者・幼児体育指導者等が乳幼児の運動あそび指導に必要な知識・技術及び技能を高め、保育実践力の向上を目指すものです。期間は6カ月間、月1回の集中授業と24時間分のフィールドワークの授業内容で構成されています。今回の参加者は園所属の幼児体育指導者4名（宮城県、兵庫県）、派遣企業の幼児体育指導者1名（兵庫県）、子ども園主任保育者（福井県）、学生1名（宮城県）の7名の参加です。



講座開講の趣旨は、近年、子どもを取り巻く環境は変化しており、子どもの心身の発達にも大いに影響を与えており保育現場においては、子ども一人ひとりの発達段階や発達過程をその内面から理解し、子どもの思いを共感し、受け入れることが出来る保育の力を高め、子ども一人ひとりの健全なこころとからだを育む保育実践力が求められています。

特に、子どものこころとからだを育むことのできる「運動あそび」を経験することの保育的意義は、技術指導に偏った「できるようになる」ためのものではなく、運動あそびを通して、楽しく、ワクワクする心が動く経験、また、「気づき」「発見」「創造」といった、子どもの興味・関心に基づいた自発的な心を育み、身体を動かすことが楽しく心地よいと感じ、自ら進んで主体的に体を動かし、運動の楽しさを味わうことにあると考えます。

受講していただいた7名の方と、半年間という短い期間ですが、ともに研鑽し、「すべての子どもが幸せになる」ための実践力向上を図るべく、共に研鑽してまいりたいと思います。

<原田健次教授>

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.30

担当：助手 小野勇太

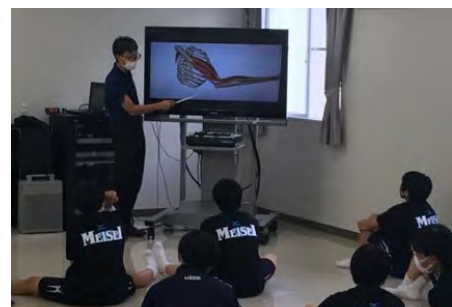
10月も仙台大学川平アスレティックトレーニングルーム（川平ATR）では、仙台大学附属明成高等学校の体育授業を担当させて頂きました。内容はスポーツ創志科1年生全員に「測定と評価（写真①）」、健康スポーツコース2年生女子に「ストレッチング（写真②）」です。1年生の測定と評価は、動画を利用して実技内容を紹介、生徒全員でセルフチェックを行い、その後川平ATRスタッフによるチェックを全体に対して実施。測定項目は①全身関節弛緩性、②柔軟性、③下肢筋力の3点を行い、自らの身体的特徴を客観的に学び、他者との違いを感じながら、自分の身体について関心を深めていました。今回の授業のフィードバックを含めた続編も予定しているので、生徒たちの関心をより深めていきたいと思います。

2年生のストレッチング授業は、動画を利用し、筋肉の仕組みを知った上で、ストレッチングの意義、目的、状況に合わせたストレッチングについて学びを深めました。スポーツは「する」だけではなく、「みる」「知る」という視点が含まれると、更に面白くなります。そして我々AT・S&Cは「支える」専門家です。このように、スポーツを「する」「みる」「知る」「支える」を学べることが、仙台大学附属明成高等学校の魅力であり、川平ATRの生み出す一つの価値と考えています。

建学の精神である、「実学と創意工夫」を日々実践継続し、我々川平ATRスタッフ一同、「高校スポーツの安全を守る」の更なる活動を展開していきます。



①動画を見ながら全員で関節をチェック



②筋肉の動きを見ながら仕組みを学ぶ